

外科学概論		講義	教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13351201

1. 授業のねらい・概要

各臓器の疾患で治療法のひとつとして外科的治療すなわち、手術が選択できる場合どのような術式が選択されるかを各臓器における外科疾患の病態，概念，外科的処置について講義する。

診断・治療がどのようにして進められていくかの基本知識の修得を目指し，各臓器における疾患の病態，概念を理解させ，そのうえで治療法としてどのような根拠で外科治療すなわち手術が行われるかをについて講義する。

2. 授業の進め方

アクティブラーニング方式により授業を進めていく。把握しにくい内容は，イラストや図，表を多用し説明する。

3. 授業計画

1. 損傷・創傷・熱傷	9. 乳腺疾患
2. 炎症と外科感染・腫瘍	10. 消化器の解剖と生理
3. 腫瘍・ショック・輸血と輸液	11. 腹部外科疾患の主な症状
4. 消毒と滅菌・手術・麻酔	12. 消化器疾患に対する主な検査
5. 移植と免疫・出血と止血・心肺蘇生法	13. 代表的腹部外科疾患
6. 脳神経外科疾患・甲状腺と頸部疾患	14. その他の腹部外科疾患
7. 胸壁と呼吸器疾患	15. 第1回から15回までの総まとめの演習を行う。
8. 心臓と脈管疾患	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

外科学は，解剖学，生理学などの基礎科目の知識を必要とする。それらを理解した上で授業を受けるとより解り易すいため，基礎科目をしっかりと復習すること。予習課題として，学生ノートとして事前配布し課題に取り組み，学生ノートを基に授業に臨む（45分程度）。復習課題として，学生ノートを基に授業内容を整理しまとめ，学生ノートを提出する（45分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回，授業で実施した学生ノートを提出してもらい，適宜コメントをする。

6. 授業における学修の到達目標

総論や，各疾患の病態，症状，診断法，外科的処置を理解し説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

予習・復習課題，出席（40%），定期試験（60%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

改訂第10版救急救命士標準テキスト
適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

講義回数の3分の1以上欠席した者は評価の対象としない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は病院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。